

1
月



美園小だより

令和7年1月7日
さいたま市立美園小学校
第173号 児童数 1062名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

平和の願いを繋ぐ

校長 河野 秀樹



〈原爆の子の像〉

明けましておめでとうございます。

今年の元日の新聞各社の一面に目を向けると「つながり 耕す 能登と一緒に 地震きょう1年」(朝日新聞)、「デジタルで問う「真の民意」 「1人1票方式すら疑う」」(毎日新聞)、「中国 宮古海峡を封鎖演習 台湾有事想定か 政府警戒」(読売新聞)など、1年のスタートにあたって不安なニュースが見受けられました。しかし、昨年10月には、ノーベル平和賞が長年活動してきた日本原水爆被害

者団体協議会(日本被団協)に決まり、12月にノルウェーのオスロで授賞式があったことは嬉しいニュースでした。

ノーベル平和賞が決まった翌日、広島市の広島平和記念公園にある平和のシンボル「原爆の子の像」のモデルになった佐々木偵子さんの兄が「偵子、良かったね。平和への思いが届いたよ」「被団協が地道な活動で伝えてきた被爆者たちの苦しみや原爆への恐怖を、世界が評価してくれた」と、コメントを寄せていました。

偵子さんは2歳の時に広島市の自宅で被爆し、白血病を患い、1955年10月に12歳で亡くなりました。回復を願い、病床で死の間際まで折り鶴を作り続けたそうです。「原爆の子の像」を建立する運動のきっかけになったのは、小学校の同級生でつくる「団結の会」です。このグループが「原爆の子の像を作しましょう」というビラを作ったことから始まりました。

「ズッコケ三人組」シリーズの著者であり、広島生まれの 那須 正幹氏は「団結の会」の会長らと高校時代の学友だったそうです。那須氏は著書に、偵子さんと友達との素晴らしい人間関係のことを記しています。

〈団結の会ができるまで〉

- ・運動が得意で友達から慕われていた偵子さん。偵子さんがいた6年竹組は、他クラスからボロ学級と言われていました。しかし、以前負けた悔しさから、放課後誰言うことなくリレーのバトン練習などを繰り返して行きました。担任の野村先生は日頃から「62人の子どもたちは、それぞれ家庭環境が違うし学力も様々だ。しかし、いったん同じ教室に席を置いたという事実は永久に消えない。例え大人になろうとも、この絆を大切にしてほしい」と語っていました。
- ・今まで学校を休んだことのない偵子さんが、6年生の時に白血病で突然入院します。余命は約半年。野村先生は迷った末に、偵子さんの病気をクラスメートに伝えます。その時「先生、病院にお見舞いに行ってもいいですか」「お見舞いのグループを作って順番に行こう」などと意見が出ました。これまで自分勝手だった子どもたちが、たった一人のクラスメートのために協力して「団結の会」を発足することにもなりました。
- ・偵子さんが亡くなり「団結の会」のメンバーは、「これから毎月偵子さんの命日にできるだけ集まろう」「募参りするのが一番いい」などと話し合いました。葬儀に参列した子どもたちに、偵子さんの両親は生前偵子さんが折り続けた紙の鶴を形見として配りました。

私は今から10数年前に家族で広島を訪れ、「原爆の子の像」を見ました。しかし、偵子さんを思う友達の行動については知りませんでした。年の初めにあたり、これから新しい時代をつくる子どもたちが、誰もが幸せになるために知恵を出し合い行動していくことや、これからも平和を願う気持ちを繋いでいってほしいと、改めて強く心に思いました。

参考図書：折り鶴の子どもたち 原爆症とたたかった佐々木偵子と級友たち 那須正幹 PHP